

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年6月21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0874100597		
法人名	有限会社 在宅介護サービスきぼう		
事業所名	グループホーム みらく	ユニット名	ユニットA
所在地	〒308-0112 茨城県筑西市藤ヶ谷2365		
自己評価作成日	平成25年2月3日	評価結果 市町村受理日	平成25年6月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0874100597-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年3月12日	評価確定日	平成25年6月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>『地域や家族とのかかわりを大切にする。』をモットーに、日々のケアに取り組んでいる。 また、恵まれた環境や、施設の多様性を活かして、入居者・家族・地域の貢献に役立てることがな いかと日々奮闘中である。 管理者・介護職員は当グループホームを入居者の『終の住み家』・『最後の家族』としての自覚を 持ち、『その人らしさとは何か?』を常に考えながら、これからもよりよいケアに取り組んでいく考 えである。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>居間前面に広いテラスが設置されており、利用者が気軽に外気浴が楽しめる環境となっている。 テラスの前には芝生や自家菜園が広がり、開放感を与えている。 建物中央のホールは吹き抜けで、採光の良い明るい空間となっており、普段は居間兼食堂として使 用しているが、レクリエーションをする場合でも十分な広さを備えている。 以前から事業所で飼っていたペットの犬や猫の他に、東日本大震災で被災した犬を引き取って飼育 しており、利用者はペットと触れ合う機会が多く、癒しの効果を得ている。 「自分で出来ることはやっています」と理念に掲げているとおり、利用者は職員の見守りの もと、テーブル拭きやお茶当番、洗濯物たたみなど、自分でできることを行っている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を行いながら、住み慣れた我が家のような場所を目指すという理念を掲げ、家庭的な雰囲気や大事にした支援を心がけている。理念を事業所内のトイレなどに掲示するなどして、職員間の理念の共有に努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、朝・夕の申し送り時や月2回実施している職員会議で日々の支援を理念と照らし合わせたり、理念に立ち返ることに努め、職員の共通理解を図っている。 新しく採用した職員には代表者がオリエンテーションの中で理念について話をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、地域での清掃や、ごみ拾い・夏祭りなどの地域行事に利用者と共に積極的に参加している。市の文化祭に利用者が作成した作品を出展している。散歩や外出時などには近隣住民と積極的にコミュニケーションをとるようにしている。	事業所は地域の一員として地域を大切に考え、散歩時や外出時に地域住民に積極的に声をかけて交流を図っている。 自治会に加入し、利用者と職員は地域の清掃活動に参加している。 関城地区の文化祭に貼り絵や布草履など、利用者の作品を出展するとともに、見物に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会やボランティア訪問時は近隣住民に参加を呼び掛けて、気軽に立ち寄ってもらい、理解を深めてもらうよう努めている。また施設長が専門学校の講師を依頼されたり、地域の集会に講話に招かれたりして地域貢献に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を実施している。議事録をとりサービスに反映できるよう努めている。平成25年1月実施分から取りまとめが管理者から施設長に変更になりました。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、地域住民、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の状況や活動報告をしているほか、委員と意見交換をしている。 市職員から看取り介護に対する家族等の同意書の必要性について意見が出たため、家族等に説明のうえ看取り介護の同意を得るよう改善している。 家族等からは「感染症の流行に伴い面会を制限をする場合は早めに対応してほしい」などの要望が出されており、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事務手続き時だけでなく、定期的に施設長が市役所を訪れ、ホームの実情の報告や介護保険制度の疑問点などを担当課職員に聞くなど運営上の相談をしている。2ヶ月に1度、市役所の生保入居者の担当職員が訪れ情報交換を行っている。	代表者が市役所を頻繁に訪問して介護保険の疑問点等を聞いたり、情報交換をしている。 市の生活保護担当者が2ヶ月に1回来訪しており、その機会に生活保護受給利用者の生活状況や事業所の運営状況を報告したり、情報交換や相談などを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ポスターを貼ったり、ミーティングで話すなど身体拘束をしないケアの理解に努めている。やむを得ず身体拘束をする場合には、マニュアルを用い、家族に同意を得た後、市役所に報告している。（本年度事例1件あり）	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成しているほか、身体拘束排除宣言を廊下に掲示している。 代表者や管理者、職員は身体拘束の弊害を理解し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない支援に取り組んでいる。 過去に家族の同意を得たうえで点滴中にミトンを着用したケースが1例あったが、職員で話し合い、現在は点滴中に職員が見守ることミトンの着用はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ポスターを貼ったり、ミーティングで話すなど虐待をしないケアの理解に努めている。（マニュアルあり）		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	社内研修にて対応している。（マニュアルあり。該当事例なし。）		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の重要事項の説明などには十分時間を取り、急いで決めてもらうのではなく、十分に納得・理解してもらった上で契約や解約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談窓口を明記している。また、年3度実施している家族会（4月、7月、12月）では利用者家族からの意見・要望を聞いている。また毎月の利用料の支払い時にも意見を聞き運営に反映させている。	利用者からは日常の問いかけや会話の中から意見や要望を聴いている。毎月の利用料を支払いに家族等が来訪しているほか、花見や納涼祭、クリスマス会などの事業所の行事に合わせて家族会を開催しているため、その機会に家族等から意見や要望を聴くよう努めているが、運営やサービスの向上に対する意見等を汲みあげるまでには至っていない。	年1回程度無記名のアンケートを実施し、利用者や家族等の意見等を汲みあげるとともに、出た意見等を運営に反映させることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回行なっているミーティングで出た意見を運営に反映するよう努めている。また、施設長は職員との間で気軽に相談できるような人間関係作りを心がけている。	代表者や管理者は月2回職員会議を開催し、職員の意見や要望を聞くよう努めている。 職員から風呂場の手すりの修繕について意見が出たり、近隣の神社に奉納する千羽鶴を系列のグループホームや通所介護事業所と合同で制作してはどうかとの提案を受け、レクリエーションの時間に制作に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の大多数が日々の職場・家庭生活に追われ、「自己啓発などとても無理」と音を上げているが、希望者には介護福祉士や介護支援専門員試験などのテキストを購入したり、勤務シフトを配慮したりと、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、管理者や計画作成者などが主に参加しているが、その結果を介護職員に伝えられるよう資料配布・ミーティングなどを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	筑西市のグループホーム協議会がなくなってしまい、施設長が近隣グループホームに訪問する以外は職員レベルでの交流はない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症が進んだ利用者に対しても、可能な限り話し合う機会を設けて対応に努めている。また、契約前の見学時に入所者と一緒にお茶を飲んだり、歌を歌ったりなど交流してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階の施設見学や電話問い合わせなど、気軽に相談できるよう配慮し、できるだけ家族と話し合える機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の状況など必要に応じて、入所ではなく、在宅介護サービスの利用や他の施設をすすめるなどを行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者が畑で野菜作りをしたり、切干大根を一緒に作ったり、芝生の草取りをしたり、歌を唄ったりなど同じ時間を共有できるよう配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じ、年末年始や法事などの時に、家族に外出や外泊の依頼をするなど、一方的な支援にならないよう配慮している。また、家族と利用者の関係が疎遠にならないよう、利用料の支払いは原則、施設に来てもらうようにしている。あわせて、定期開催の家族会（花見、納涼祭、クリスマス会）は家族親類最低一人は出席してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が住んでいた近所の行事に出かけたり、本人の昔話によく出てくる場所に出かけたりと、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。生活保護の入居者は、親類縁者がいないので、グループホームの生活により新たな人間関係が築いていけるように支援している。	利用者の友人が来訪しており、職員はお茶を出すなどして歓迎し、関係が途切れないよう支援している。 花見や納涼祭、クリスマス会に合わせて開催される家族会には、最低でも一家族1名の出席を依頼しており、利用者との関係継続を支援している。 職員が同行して利用者が自宅や墓参り、馴染みの駄菓子屋に行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に歌をうたったり、ぞうきんがけや掃除などの手伝いをしたり、本人のペースも踏まえながら、できるだけ入居者同士が関わり合えるような配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者にも家族会等の案内を出したり、気軽に訪問を呼びかけたりと、契約終了後も付き合いを大切にしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は利用者との日常会話からその人の思いをくみ取るよう心がけ、日報に書き留めるよう努め運営に反映させるよう働きかけている。	職員は日々の暮らしの中で利用者の行動や会話から思いや希望、意向の把握に努めている。 思いを表出できない利用者の場合は家族等から話を聴いたり、職員同士で話し合っって利用者本位に検討している。 把握した情報は日報に記録して職員で共有しているが、いつでも再確認ができるよう利用者毎に記録するまでには至っていない。	利用者について知り得た情報は職員がいつでも確認ができるよう、利用者毎に記録しておくことを提案する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族と絶縁状態で、生活保護の利用者などの把握は困難であるが、本人や家族ができるだけ話しやすい対応をし、生活歴の把握に努めている。また日々の生活でふとした会話などから本人の意向を汲み取るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員に日常的に利用者の経過観察を行うようにし、申し送りをするよう指導している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者か家族から意見を聞くと共に職員からはミーティング時などに意見を求めている。基本的には6ヶ月ごとに見直しを行い、ADL等に変化があれば随時見直しを行っている。	利用者や家族等の意見を基に、職員の意見を取り入れて計画作成担当者が介護計画を作成している。 介護計画の見直しは6ヶ月毎に実施したり、利用者の心身の状態や家族等の要望が変化した場合は、その都度現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報や個人別の介護記録にあまり介護職員の気づき等が記載されていない。ミーティング等で意見をまとめるなど改善を検討したい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の代行で介護保険の手続きをしたり、通院したり、身体状況に応じて他の施設や介護サービスをすすめるなど柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フラダンスやお囃子、芝居などの地域ボランティア等を積極的に利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望すれば、入所前のかかりつけ医で受診してもらっている。入所後は必要に応じて提携医院に24時間往診対応をしてもらい、その都度家族に報告している。定期的に歯科医師による口腔ケアも行ってもらっている。	利用者や家族等の希望が有れば入居前からのかかりつけ医への受診支援は可能だが、週1回協力医療機関の訪問診療が有り、24時間往診が可能であることから、現在は利用者全員が協力医療機関を受診している。受診結果は家族等に報告している。月1回歯科医師による訪問歯科診療が受診できるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームの職員に看護師資格を有している者がおり、医療処置などを日常的に支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを持参し情報の提供に努めている。また、手術後にはできるだけ早期に退院させてもらえるようこまめに病院に赴き、術後処置が必要な場合は提携医に往診対応してもらうなどしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	症状が重度化の兆しが見えはじめたら、家族や医師と終末期のあり方について相談している。当グループホームは提携医の往診対応で看取りを行っています。必要に応じ、施設長が泊り込むなど、24時間体制で取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた事業所の対応方針を作成して契約時に口頭で説明していたが、書面で同意を得るまでには至っていなかったため、平成25年1月末までに改めて家族等に説明して書面で同意を得ている。 協力医療機関の医師による往診や看護職員との24時間連絡体制が整っていることから、これまでも看取りを行っているが、看取り介護に関する職員研修を実施するまでには至っていない。	看取り介護に対する職員の共通理解を図るため、全職員を対象に看取り介護の研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が日常的に対応し、近所に住んでいるため、管理者や施設長、社長などを除いては、全ての職員が実践力を身に付けていると言いたい。 (2年に一回程度に消防署の救急救命講習を施設で受講している。)		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者講習や消防計画は済んでいる。自主避難訓練や避難場所等は決めている。近隣住民への協力依頼を行い避難訓練に参加してもらっている。	夜間想定や地域住民の参加を得た避難訓練を年3回実施するとともに、避難訓練で明らかになった課題を記録に残している。 緊急連絡網が整備されていないほか、緊急時における近隣住民への連絡方法も検討中である。 災害時に備え、米や飲料水、調味料を備蓄しているほか、発電機を用意している。 以前は食品も備蓄していたが消費期限が切れたのを機会に補充を行っていない。	緊急連絡網を整備するとともに、緊急時における近隣住民への連絡方法を確立することを期待する。 備蓄品のリストを作成して賞味期限などを管理するとともに、消費した後は補充することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を第一に考え、生活歴や個性を尊重し、プライバシーに配慮した声かけや支援を行っている。排泄介助などは特に気を配り対応している。個人情報に記載されている書類は系列グループホームの鍵がかかる書庫に保管している。	「プライバシー保護の取扱いマニュアル」を作成し、利用者の人権やプライバシーに配慮した支援に努めている。 個人情報に関する書類は、鍵のかかる事務所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	積極的に声かけをし、やるやらない、欲しい欲しくないなどの意思確認をできるだけ行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事をとりたくないという利用者には食事の時間をずらしたり、横になりたいという利用者には昼寝をしてもらったりとできるだけ本人の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外での理美容を希望する利用者には、職員が付き添い外出している。当施設でも美容師免許をもった職員がいるので、本人の希望をできるだけ反映させられるよう対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルふきやお茶をいれてもらったりを手伝ってもらったり、一緒に食事を楽しむように努めている。食事は業者の高齢者施設向けのサービスを利用している。	高齢者施設向け業者に委託して給食サービスを利用している。 利用者はできる範囲でテーブル拭きやお茶入れなどの役割を当番制で担っているほか、自家菜園で収穫した大根を切干にしたり、里芋の皮むきなどを職員と一緒にしている。 月1回外食の機会を設け、蕎麦など利用者の希望にそった物が食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日報に水分摂取量を記録したり、カロリー計算をして献立をたてるなど支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科医の指導を受けるなど口腔ケアに努めている。（基本朝夕）		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的に声かけをし、できるだけ尿・便失禁がないように配慮している。また、排便に関しては状況を把握し、必要に応じて服薬、看護師による浣腸・摘便を行っている。	職員は排泄チェック表を活用しながら利用者一人ひとりのタイミングに合わせてトイレに誘導し、トイレで排泄ができるよう支援している。 職員の適切な支援により、リハビリパンツ使用から布パンツ使用に改善した利用者もいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と、水分摂取量の把握など便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する・しないは本人に確認をとるが、入浴日・時間等は便失禁等の随時のシャワー浴などの場合を除き基本的に決められている。夏場3回/週、冬場2回/週 入浴時は入浴剤を入れたり、ゆず湯にしったりと入浴を楽しめる工夫を行っている。	入浴は夏は週3回午前中、冬は週2回午後に支援するほか、失禁時には随時対応している。 入浴を拒むが、浴室まで誘導すればスムーズに入浴ができる利用者に対しては、無理なく入浴ができるよう声かけを工夫して浴室まで誘導している。 入浴剤を使用して気分を変えたり、柚子湯などで季節を感じながら入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に応じて、昼寝してもらったり横になってもらったりしている。また、散歩などの適度な運動による安眠を促したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師である職員からの説明や、薬剤の説明書をファイリングするなどして理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞取りや、野菜作り、食事の当番など役割や楽しみごとの場面づくりを支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	散歩や買い物の付き添い、外食など は定期的に行っている。また、普段 行けないような、利用者が昔よく 行っていた縁日や神社の花見、温泉 旅行などを家族に手伝ってもらい支 援している。その他、盆踊りや夏祭 り、近所の小学校の運動会などへの 外出を支援している。	年間の外出計画に花見や小学校の運動会、 夏祭りなどを組み入れるとともに、利用者の 体調や気象条件に合わせて外出支援をしてい る。 毎月山川不動尊に出かけたり、月2回から 3回大宝神社に参拝に出かけている。 利用者の希望にそって事業所近くを散歩し たり、近くのコンビニエンスストアに買い物 に行けるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる	認知症が進んだ利用者が紙幣を破い たり、硬貨を食べてしまったりする ため基本的に利用者に金銭管理を行 わせていない。しかし、外出時など にはお金を渡し、支払いをしてもら うなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	利用者によっては手紙を書いて家族 の面会時に渡したり、定期的に電話 をかけたりの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	花を置くなどして、親しみやすい環 境を心がけている。また、壁に掲示 物を貼ったり、手芸品を置くなどの 雰囲気づくりを行っている。	事業所の中央に位置する食堂兼居間は吹き 抜けで、明るい空間となっている。 居間から広いテラスが広がっており、開放 感が感じられる。 居間には絨毯が敷かれているほか、掘炬燵 が設置されており、利用者が寛げる空間と なっている。 廊下はゆったりとした設計となっており、 作り付けの椅子を設置したり、廊下に手すり を設置し、利用者が安心・安全に歩行がで きるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話スペースや廊下の椅子など、利用者が思い思いに過ごせるような工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昨年退所の利用者は仏壇を持ち込んでいた。状況に応じて馴染みの小物を持ち込んでもいいと伝えてはいるが、持ち込まれるケースは少ない。	居室にはエアコンや防炎カーテンが備え付けられている。 ベッドや寝具、カーペットなどは家族等の協力を得て使い慣れた物を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるよう配慮している。 衣装ケースは希望者には事業所で貸し出ししている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に応じ、できるだけ自立した生活が送れるように支援している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームみるく

作成日 平成25年6月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	家族会や支払時などに家族からの意見を聞いているが、遠慮や意見したことにより関係が気まずくなるかもしれないと思っているためか、積極的な意見・要望が出てきていない。	家族からの積極的な意見・要望を聞き出し、日々の運営に反映させる。	年に1回程度、無記名のアンケート調査を実施し、利用者や家族等の意見をくみ上げ、日々の運営に反映させる。	H25/9（上期） 中
2	9	利用者の思いや、何気ない会話から出た気付きなどは日報に記録されているが、利用者毎に記録されていないため把握しにくい。	個人別に気付きなどを記録する資料を作成し、日々の運営に活用する。	記録のための資料を作成し記録するとともに、その内容を日々の運営に活かせるようにする。	資料作成済み。運用は H25/9(上期) 中
3	12	看取り介護を行っているが、文書による確認等、手順に従って実施されていない。また、看取り介護の社内研修が行われていない。	書類等、手順に従った看取り介護を実施する。また、看取り介護の社内研修を行う。	定例ミーティングなどで看取り介護の社内研修を行い、当施設での看取り介護を希望された場合は、文書など手順に従って看取り介護を実施する。	当施設での看取り介護希望の入居者がでたとき。社内研修についてはH25/9（上期）中
4	13	緊急連絡網が最新になっていない。また、近隣住民への連絡方法が確立されていない。備蓄品のリスト、賞味期限などが管理されていない。	緊急連絡先を最新にし、近隣住民への連絡方法を確立する。備品のリストを作成し、賞味期限などを管理する。	定例ミーティングで近隣住民への連絡方法などを話し合い、文書化する。備品の管理を行う文書を作成し運用する。	H25/9（上期） 中
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。